

巻 頭 言

大阪医科薬科大学看護学部 教授 池西 悦子
(Etsuko Ikenishi)

大阪医科薬科大学看護研究雑誌は、本学における教員等の教育・研究成果を広く、看護界に発信し、看護学の向上と発展に寄与することを目的として、看護学部が開設された2011年度に創刊され、このたび第13巻の発刊を迎えます。この13年間に、日々の教育・研究活動をとおして得られた成果や知見は、総説6編、原著25編、研究報告39編、実践報告8編、資料103編、特別寄稿2編の176編となりました。

教育機関などが定期的に発行する学術雑誌は、教員や大学院生等の研究成果の発表の場としてだけでなく、組織内において各々がどのような教育・研究への取り組みを行っているのかを互いに知り合い、交流や共同の芽へと発展させることや、本学独自の教育活動を遺す場としての機能も有していると考えます。

看護学教育は、2022年より開始される新カリキュラムにむけてカリキュラムの見直しを行っている最中に、COVID-19感染症が深刻化し、ICTを活用した教育方法への改革が求められました。特に課題となったのが実習教育で、実習に行けない場合には、各実習を学内で補うためにシミュレーションを取り入れたプログラムが展開されました。今後、感染症が終息しても元通りではなく、新たなプログラムで得た発見を活かした教育方法へと進化することが期待されています。このように看護学教育は、教育改革と多様な課題に継続的に取り組むことが求められている現状があります。

これまでも教育の現状や改善に向けた取り組みが本誌で報告されてきました。今後は、さらに様々な教育改善・改革を考える上で、貴重な学術資料として参照・活用できるように、日々の教育活動をとおして得られた成果や知見が本誌から発信されることを期待したいと思います。

コロナ禍での研究は、制約が多く大変ではありますが、私たちの知的好奇心を刺激し、エネルギー源にもつながります。本学の研究力をさらに高めていくためにも、本誌での成果発表をステップにして、より大きな成果へと発展させていただきたいと思います。

本学の目指す「医療人育成機関の使命は、教育と研究であり、またこれらは医療の実践に活かすことで達成される」ことに資する研究が、本誌から発信され、より充実した学術雑誌に発展することを祈念します。